

～道産ブナ苗木による広葉樹林再生に向けて～

2013年函館の作柄が並作でも産・学・官の連携で種子を約55kg収穫

道南地域に特有の樹種であるブナは早春の黄緑色の若葉が美しい落葉広葉樹です(写真-1)。ブナの蓄積は過去の伐採などにより低下したため、ブナ林再生に向けて植栽が行われています。ところが、ブナの種子には豊凶現象があるため、豊作※が訪れない状況が長く続くと地元産苗木の供給が難しくなり、需給のバランスが取れなくなってしまう。



写真-1 新緑のブナ林(函館市恵山)

こうしたなか、並作でも種子を採取するために、道南地域の産・学・官(渡島地区種苗協議会、林業試験場道南支場、渡島総合振興局林務課・森林室)が連携し、採取場所や作柄に関する情報を共有するための仕組みを整えてきました。

※豊作：充実した種子が200個/m²以上、並作：充実した種子が50～200個/m²、凶作：充実した種子が50個/m²以下

採取場所に関しては、『ブナ堅果採取場所 台帳』(図-1)を作成し、ブナ林の所有者、採取対象となる木の数、過去の採取実績などについて記録することとしました。

番号	(作成年月日 平成 年 月 日)		
住所			
所有区分	国有林	林班 小班	
・林小班	道有林(東部森林室・西部森林室)		
	一般民有林(市町村名)		
巡回担当者	渡島地区種苗協議会・渡島東部森林室・渡島西部森林室 渡島総合振興局・檜山振興局・その他(林業試験場道南支場)		
設置年度	年度	採取場所面積	ha

図-1 ブナ堅果採取場所台帳(抜粋)

作柄に関しては、林業試験場道南支場が開発したブナの結実予測法によって毎年6つの地点(函館市赤川・函館市恵山・上ノ国町・島牧村・黒松内町・乙部町)で調査を行い、豊凶の情報を提供しています。豊作や並作が予測されると、台帳を元に採取候補となるブナ林の作柄を見回り、採取対象木を決定します。



写真-2 ブナの種子と殻斗

図-2 2013年ブナの作柄
●：豊作
○：並作
X：凶作

2013年は、6地点のうち島牧が豊作、函館赤川・上ノ国・黒松内が並作でした(図-2)。函館赤川は並作でしたが、渡島地区種苗協議会が函館市の道有林で種子を収穫(精選前重量約55kg、種子数にすると約30万個)、購入することができました。これは、30haの植栽に足りる量と考えられます。

産学官の連携による成果は、2007年(精選前重量40kg)、2011年(精選後重量13kg)に続いて3回目となり、道南の広葉樹林再生に貢献しています。



写真-3 ブナ林に敷いた収穫用のネット

◆ブナの豊凶予測技術については林業試験場ホームページに掲載しています。
<http://www.fri.hro.or.jp/O3donan/buna/bunayoho.htm> (道南支場 寺田)